

オプション教材 0 イバラ 暗唱長文集



●暗唱の手順 1 日分

・ 1 日目は、まず、**1**の文章を30回音読します。最初の数回はゆっくり正確に「てにをは」などを間違えないように読みます。

正確に読めるようになったら、ある程度早口で棒読みで、句読点などであまり息継ぎをせずに読んでいきます。

イスにきちんと座って読むと読みにくい場合は、歩き回りながら読んでもかまいません。

お母さんやお父さんは、読み方の注意などは一切せずにただ優しく褒めるだけにしてください。

15回ぐらいでもう空で言えるようになることが多いと思いますが、できるだけ30回続けて読んでください。

なぜ回数を決めて繰り返すかという点、「覚えられたらよい」という目標でやっていると、暗唱の教材が難しくなったときに、「難しいからできなくなった」ということになりがちだからです。「決まった回数を繰り返す」という目標でやっていると、難しい教材になっても同じように暗唱ができます。

30回音読しても暗唱できない場合は、もう10回音読してください。

これでその**1**の文章が暗唱できるようになります。

それでもできない場合は、暗唱の自習はいったん終了してかまいません。また機会を見てやっていきましょう。

●暗唱が難しいときは

暗唱のような短い時間の学習は、夕方にやろうとすると忘れてしまうことがあります。また、毎日同じようにやらないとできるようになりません。できるだけ、朝ご飯の前などに、家族のいる中でやるようにしましょう。

そして、暗唱を毎日やるのが難しい場合は、暗唱の自習はせずに、読書の方に力を入れていってください。

●暗唱の手順 1 週間分

- ・ 1 日目に、**1**の文章を暗唱できるようにします。
- ・ 2 日目は、**2**の文章だけを同じように30回音読し、暗唱できるようにしておきます。
- ・ 3 日目は、**3**の文章だけを同じように30回音読し、暗唱できるようにしておきます。
- ・ 4 日めは、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。すぐに暗唱できなくてもかまいません。
- ・ 5 日めも同じように、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。
- ・ 6 日めも同じように、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。
- ・ 7 日めも同じように、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。すると、**1**から**3**の全部の文章が暗唱できるようになります。

●暗唱の手順 1 か月分

- ・ 1 週目に、**1**から**3**の文章を暗唱できるようにします。
- ・ 2 週目は、もう**1**から**3**はやらずに、今度は**4**から**6**の文章を暗唱します。
- ・ 3 週目は、同じように、**7**から**9**の文章を暗唱します。
- ・ 4 週目は、**1**から**9**の文章を全部通して、毎日4回ずつ音読します。
- ・ すると、1 か月で**1**から**9**の文章が暗唱できるようになります。

●暗唱の活用

・ 暗唱のコツをつかむと、自分の好きな本の1部を暗唱したり、英語の教科書を暗唱したりできるようになります。また、覚えるつもりがなくても、物事が頭に入りやすくなります。

●より詳しい説明は

より詳しい暗唱の仕方は、「暗唱の手引」(<http://www.mori7.net/mori/mori/annsyoun.html>)をごらんください。

1 コウモリは、夕方薄暗くなつてから空を飛びまわる動物です。その黒い影が、少し気味が悪いということ、怖がる人もいます。

しかし、南の国には、とてもかわいいコウモリがいます。2 フルーツコウモリといつて、金色でむくむくして、まるでぬいぐるみのようです。コウモリはふつう虫などを食べますが、このフルーツコウモリは、果物や花の花粉を食べます。

3 南の国には、おいしくて甘い果物がどこにでもたくさんみつています。マンゴーやパイナップルなど、汁気もたつぷりのみずみずしい果物です。4 こうしたところでは、コウモリが果物を食べて種を落としたり、花粉を運んだりすることによって、その果物や花の繁殖を助けています。

5 このコウモリはおいしい果物ばかり食べているので、清潔でしかも肉の味がとてもよく、地元の人がつかまえて食べるようになります。そこで、コウモリも知恵を使って、お寺の広い庭の木にすむようになります。6 どうしてかという、南の国では、お寺の中にいる生き物は、決して殺してはいけないという決まりがあるからです。コウモリたちは、なぜかそのことを知って、お寺にすむようになったのです。

7 南の国のお寺にいくと、庭には、野良猫や野良犬がのんびりし、木には、金色のフルーツコウモリがたくさんぶらさがつて、これものんびりしています。8 その様子は、まるでコウモリの形をした果物がたくさんみにつているようです。昼間は暑いので、コウモリたちは、片方の羽を使つてばたばた体をあおいでいます。

9 「コウモリさん、フルーツをどうやって食べるんですか。」
「コウ、モリモリ食べるんだよ。」

ことば もりようぶんさくせいいいんかい
言葉の森長文作成委員会（こ）

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

1 買ってきた野菜の葉に、いも虫がたくさんついていたらどうしますか。普通は「わあ、いやだ」と急いで取り除き、野菜をすっかりきれいにしてから調理するでしょう。2 しかし世界には、いも虫を見て「わあ、おいしそう」と感じる人たちもいるのです。

アフリカの一部では、ガの幼虫であるいも虫が食用にされています。3 それらの地域では、キャッサバやトウモロコシなどのでんぷん質が食事の中心なので、どうしてもたんぱく質が不足がちです。しかし、質のよいたんぱく源は高価で手に入りにくいのが現状です。4 ですから、たんぱく質のかたまりであるいも虫は大変貴重な補助食品なのです。実際、一皿のいも虫は、大人が一日に必要なたんぱく質・ビタミン・ミネラルの約四分の三を含むと言われています。

5 秋の雨の季節が過ぎると、いも虫の収穫が始まります。村の女性たちは、総出でいも虫を集めます。いも虫は内臓を抜き、ゆでてから天日干しにします。6 この乾燥いも虫を、おやつがわりにそのままポリポリと食べるのです。

このいも虫は、ただおいしいだけではありません。ある意味で、とても効率のよい食品でもあるのです。7 いも虫は、人間には食べられない有毒の植物でもかまわず食べてくれます。そしてどんとん肥え太り、わずか六週間で体重を四千倍に増やします。8 その丸々としたおいしそうないも虫を、今度は人間が食べるわけです。

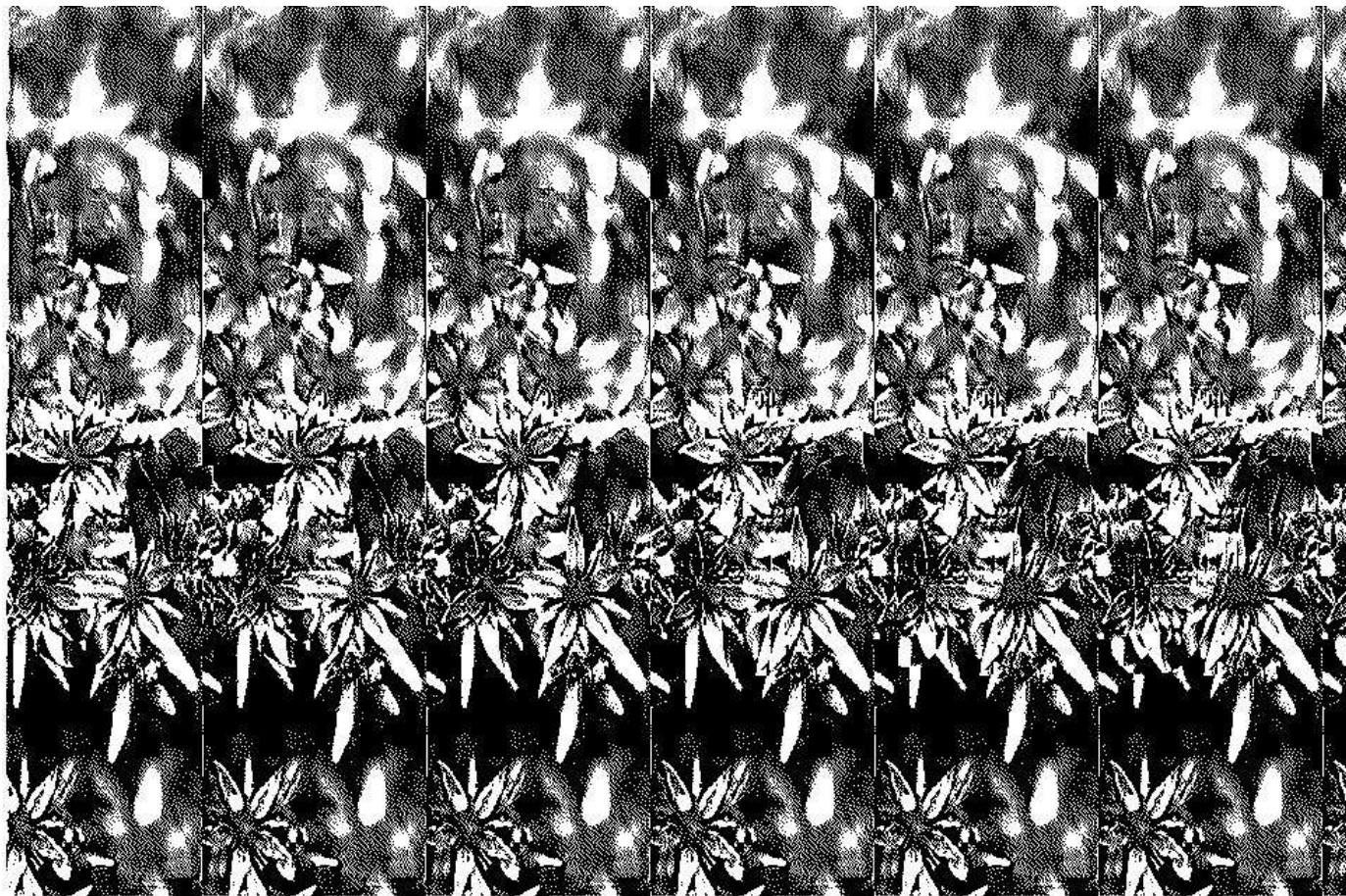
「いも虫君、いいねえ。あつたかそうな装を着て。」
「それはミノムシ。」

9 「確か、茶碗に入っているんだよね。」
「それはチャワンムシ。」

「ときどき足がかゆくなるけどね。」
「それは、ミノムシ。もう、いいもん。無視。」 0

ことば もりちようぶんさくせいいいんかい
言葉の森長文作成委員会 (22)

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01



1 脊椎動物のほとんどは、生まれたときから性別が決まっております。途中で変化することはありません。ところが、同じ脊椎動物でも、魚には、オスがメスへ、メスがオスへと変化したり、生まれながらにして雌雄同体のものがあります。

2 オスからメスへ変化するものとして代表的なのは、クマノミの仲間です。クマノミは、毒を持つイソギンチャクと一緒に暮らすことで有名です。3 ひとつのイソギンチャクに、オスとメス一匹ずつの成魚と、体の小さな幼魚の数匹で暮らしていることが多いのですが、この成魚と幼魚の間に、親子関係はありません。クマノミの稚魚は、卵から孵化すると、すぐに生まれたイソギンチャクを離れ、しばらく海の中で浮遊生活を続けます。4 そして、全く別のイソギンチャクにたどりつき、そこで元から住んでいる縁もゆかりもないクマノミたちと共同生活を始めます。これは、親子で繁殖してしまう危険をさけるための工夫です。

5 同じひとつのイソギンチャクの中に暮らしているクマノミたちは、体の大きさに違いがあります。群れの中でいちばん大きいのがメス、次に大きいのがオスです。6 三番め以降の魚たちは、オスでもメスでもない未成熟な個体です。卵を産むのはメスですが、その卵を守るのは、おもにオスの役目です。7 何らかの原因で、いちばん大きいメスが死んでしまうと、オスが性転換をしてメスになり、オスの次に大きい未成熟な個体がオスになって繁殖に参加します。クマノミの世界には、このようにきちんとした秩序があります。

8 なぜいちばん大きい個体がメスになるかというと、メスは体が大きいほどたくさんの卵を産むことができるからです。

9 「わたし、昨日までオスだったメスで、名前はクマオよ。」
「ぼくは、今日からオスになった、名前はクマコなんだ。」
「何だか、呼び方にクマつちやうね。」

言葉の森長文作成委員会（ヨ）

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34